

詩吟神風流機関紙

神風流



第171号
令和8年4月11日

全日本詩吟道連盟理事長

詩吟神風流総元

三代目 岩淵 神風

第五十六回新年全国詩吟大会の開催にあたり、多くの皆様のご協力を賜りまして心より感謝申し上げます。

ちょうど冬季オリンピックの開催中であり、テレビを見て感動しておりますが、目には見えないところでの選手の方々の大変な努力の積み重ねが伝わってくるものであります。本日のコンクール大会においても、

ご出吟される方々は予選会を経て、全国大会に向けて、並々ならぬご努力をされてきたことと思います。詩吟を聞く者に感動を与えることは勿論のこと、努力してこられた過程に、周りの方々も元気や活力を感じずにはいられなかったものと思います。心より敬意を表します。今日は、自信をもって吟詠をされますようお願いしております。

また、オリンピックを見ていても一つ

印象的だったのは、選手たちが、国を越えてお互いに讃え合っている姿であります。

そうした姿勢というものが、全体の技術向上に繋がっていると思いますが、詩吟においても「コンクール」というものは、競争というよりもお互いの努力を讃え合う場であり、今後の詩吟の発展に繋がる意義深い大会であります。

詩吟神風流は、今年、創始百周年を迎えますが、その根底には「大会」開催の歴史があります。毎年欠かさず全国詩吟大会・全国コンクール大会を開催し、伝統芸術としての吟芸が磨かれてきたのであります。会員の皆様一堂に会し、切磋琢磨する機会として、大会出吟に大きな意義とやりがいを感じていただけましたら幸いです。皆様の今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。

(新年大会挨拶より)

第56回 新年全国詩吟大会
令和8年2月22日 北区赤羽会館

第56回 新年全国詩吟大会 兼各杯コンクール決勝

